

もっといい明日が見えてくる - Letters from GNOBLE

Gno G-let

グノレット

創刊

1号

2010年9月発行

中学生・高校生の保護者の方へ

勉強最前線

～いま、教室で～

いまの成績を一喜一憂するのではなく、
先を見据えたサポートが肝心です。

清水 誠 (英語科)

ティーチャーズ・ボイス 中学数学編①

数学好きをつくる。
それが、グノーブルのテーマです。

櫻田 邦浩 (数学科主任)

おしえて！先輩

英・数・国と6年間、個性豊かな先生方に
徹底的に鍛えられて、東大に合格できました。

石丸 あんなさん (東大文Ⅱ 桜蔭出身)

カラダとココロのSOS

『学習効果を高めてくれるアロマ』

アロマセラピスト 田中薫さん監修

知の力を活かせる人に **GNOBLE**

GNOBLE (グノーブル) は、辞書に載っている言葉ではなく、
私たちの指導理念を現した造語です。

GNO は「知」を意味し、BLE は「力」を表します。

○はまた、「輪(つながり)や和」を象徴しています。

10代の頃は、有機的につながった一定の知識を身につけ、
論理的に考え、外国語が使える力を培う大事な時期です。

それと同時に「人とのつながりを重んじることも

大切なことだと私たちは考えています。

勉強最前線

中学

～いま、教室で～

音読の習慣づけが、英語力向上の第一歩。

中1、中2の英語を担当している清水です。生徒の成績を伸ばし、「大学進学後まで踏まえた長期的な視野に立ち、難関大学に確実に合格させる中高一貫体制の確立」というグノーブルのビジョンに賛同し、昨年从这里で教えています。特に中学1年生は英語の入り口ですので、正しい勉強習慣をつけることが大切。慎重に生徒たちと接していかななくてはならないと感じています。具体的に言うならば、音読を重視して、英語を声に出して読むことに抵抗感をなくすこと。たとえば、新しく出てきた単語や文法事例をつかった例文などは、目で読み流してしまうのではなく、必ず声に出して読んでみる。こうした英語指導の徹底です。

たとえば中学受験のときは漢字の勉強を一生懸命したはずですが、その場合、漢字を読むことができなくては書くこともできませんし、覚えることもできません。

英語の場合もこれと同じです。単語にしても文章にしても、まずは「きちんと読める」ことが大前提。その上で書き取りの練習を行わなくては、英語は自分のものになりません。

音読の習慣が身につくと、塾ではもちろんのこと、自宅学習をするときもきちんと声に出して英語を読むようになります。英語力の向上は、この「音読習慣」こそが最初のステップであり、こうした基礎訓練を中1、中2の頃からしっかり身につけている生徒と、大学受験が近づいてあわてて音読を取り入れる生徒とでは英語の吸収力が違います。

中学2年生からは、親子の距離感が大切。

中学1年生ですと、一般動詞にさしかかったあたりでつまづく生徒がちらほら出てきます。また、私たちは、学校よりも早いカリキュラムで学習していくため、塾に来ると勉強について来れない生徒も出てきます。その理由は、自宅学習の欠落に他なりません。基本的な能力に差があるわけではなく、毎日の自宅学習が習慣化されていて、一度習ったことをカラダで覚えているか否かで、スピードと正確さに微妙な差がついてくるのです。そこで、保護者の方々をお願いしたいことは、少なくとも中学1年生までは時間の許す限り、お子さんの音読や書き取りを見守ってあげていただきたいということです。

とはいえ、早い子で中学2年生、あるいは3年生ころになると、反抗期の芽が出てきます。とくに男の子にはその傾向が強く「い

いまの成績を一喜一憂するのではなく、先を見据えたサポートが肝心です。

清水 誠 (英語科)

つになったら勉強始めるつもりなの！」などと頭ごなしに言う。「これからやろうと思ってたんだよ！」とへそを曲げてしまう場合も少なくありません。

このことについてはよく「ウチの子だけでしょうか？」とお母さんからご相談を受けることがありますが、心配はご無用です。相当数の生徒がそうした心の曲がり角にさしかかっていると思っています。いただいて間違いありません。

確かに、中学受験という「親子二人三脚」の成功体験をもつ保護者としては「小学生の頃は自分の言うことを、何でもよく聞いて、勉強してくれたのに…」と思う方も少なくないと思います。しかしながら、年々子どもは成長し、考え方やモノの見方も変わっていくのが普通です。こうした兆候が現れたときは、親御さんの方が一歩引いて、子どもの主体性に任せてみることも時には大事なことです。

それでもなおかつ「どうしていいかわからない」という場合は、ぜひご一報ください。同じことを話すにしても、身近なお父さん、お母さんから言われるよりも、ある程度客観的な立場の者が話す方が受け入れやすいこともあるものです。



たとえテスト前でも、休まず塾に通うこと。

中学生のうちは、テスト前になると塾を欠席する生徒が出てきます。そこは時間のやり繰りをさせ

て休まず塾の授業に参加して欲しいと思います。

そのためには、塾で勉強したことを溜め込まないことが肝心です。学んだことはできるだけ早く復習をして、自分の中で消化していくことが何より。これは学校の勉強でも同じことが言えます。その日のうちに、つまり記憶が新鮮なうちに短時間で復習を済ませておくのが鉄則。しかしながら、それをやらずに放置しているからテスト前になって大慌てすることになる。結果、「塾なんか行ってもらえない！」となってしまうわけです。

私たちの授業は、おそらくどの中学校よりも早いカリキュラムで英語学習を進めているため、塾で学んだことをしっかり復習して、自分のモノにできてさえいれば、学校のテストでもかなりの高得点がとれるはず。事実、休まずに授業を受けている生徒からは「学校のテストは簡単だった」という報告も受けています。

何にしろ、中学時代の英語学習は、きっちりと基礎固めをする時期であると同時に、ここをいい加減にやり過ぎてしまうと、後になって「英語が苦手」ということになりかねません。自宅での音読であれ、塾の授業に休まず参加する

ことであれ、生徒はもとより、保護者の方々にもご理解いただき、私たちに安心してお子さんをお任せいただきたいと思います。

GNOBLE Now!

全学年

グノーブルを、You Tubeで体験できます。
保護者の皆さまも、ぜひアクセスしてみてください!
<http://www.gnable.com/gtube/>

自分の子どもは、普段どんな授業を受けているんだろう…保護者にしてみれば、とうぜん気になるところではないでしょうか。そこで、グノーブルで教える先生たちによる“学びのポイント”を「YouTube」にアップしました。英語、数学、現代国語、古文と、コンテンツも盛りだくさん。保護者の皆さまがご覧になっても「なるほどねえ」と、思わず納得してしまう「グノーブル流学習法」のほんの一部をご紹介します。またこの他、2010年度の、東京大学理系/文系合格者・医学部（慶應・東京医科歯科）合格者の取材インタビューも同時にアップ。グノーブルで学び、大きな目的を達成した先輩たちの貴重な肉声をお聞かせいただけます。保護者の皆さまも、ぜひアクセスしてみてください！



GnoTube

ティーチャーズ・ボイス

数学って、おもしろい！ そう思えることが何より大事。



私はよく生徒たちから「先生って、いつも笑顔だね」と言われます。それはもちろん、無理に笑顔をつくっているわけではなく、私自身数学が大好きで、授業をしていても楽しいからこそ自然と笑顔になってしまうのだと思います。

いかに勉強とはいえ、というか勉強だからこそ、先生の方が楽しんで授業をしていないと生徒たちの方も「楽しい！」とは思えないはず。しかしながら「まずは、先生の方が楽しみましょう」と、口で言うのは簡単ですが、これがなかなか難しいものなのです。

というのも「ここから、ここまでの範囲はきちりと教えなくてはならない」となると、先生もそのことで頭がいっぱいになって、授業にゆとりがなくなってしまう場合が少なくない。そうなってしまったら先生の方も授業を楽しむどころの話ではありません。

こうした先生というのは、良く解釈すれば「生真面目である」とも言えますが、あまり生真面目になってカリキュラムばかりにとらわれ過ぎると、授業を受けている生徒の方は辛くなる。まして中学生なら、そうした息苦しさが原因となって数学が嫌いになってしまうケースもあるのです。

グノーブルの数学科では、こうした雰囲気や教室をつくらないことを大切な課題として、すべての先生たちが授業に取り組んでいます。

何をどう教えるかも大事なことに違いありませんが、まずは生徒たちが「数学って面白い！」と思えるような環境づくりがとても重要です。

そのためには、先生のパーソナリティということも大きく関わってきますが、まず私たちが考えなくてはならないことは「もし、自分が生徒ならば」といった当事者意識を持つこと。つまり私たち先生が生徒の視点に立って考えることなのです。

Teacher VOICE

小さな感動を、 たくさん味わってほしい。



たとえば、プリントをつくるにしても、まずは自分が問題を解いてみて「これは面白い！」と思えることが、問題選びの基準になります。

もちろん、その問題が生徒にとっての実力アップにつながることは大前提となりますが、最終的な判断の基準は自分にとって「面白いかな否か」です。

「それで、ウチの子は大丈夫なの？」と思われるかも知れませんが、私の持論は、中学生のうち面白い問題をとことんやって数学の魅力の虜になることが何より。私自身がそうでした。

そもそも勉強というのはどの教科に限らず「やらされ感」を持って取り組んでいる限り、どれだけ努力してみたところで必ず限界が訪れるものです。仮に将来、東京大学を目指したいという気持ちがあるならば「好きだ」とか「面白い」という気持ちに導かれた勉強でないと、乗り越えられない壁にやがて直面することは間違いありません。

では「数学の面白さって何？」と問われれば、それは「問題を解く道筋を洞察していくこと」と言えるでしょう。

数学には、目的地（解答）へと続いている幾つかの道筋があります。そして、どの道を行けば最も効率的にそこへ到着することができるかを必死に考え、その道筋を見つけ出し、見事正解だった時の

数学好きをつくる。 それが、グノーブルのテーマです。

中学数学編①



櫻田 邦浩 (数学科主任)

喜びは何ものにも替え難いものがあります。いわばこれが、数学の醍醐味なのです。

中学生のうちは、こうした小さな感動をたくさん味わって欲しいと私は思います。そしてその感動や醍醐味を知った生徒はグングン力をつけていき、自分からより高度な問題を求めてくるようになるものです。

中学生のうちは、徹底的に基礎力(計算問題)を固めると同時に、この時期に、どれだけ「楽しい！」と思える問題に出会うことができるかが、高校生になってからの数学の「得意・不得意」に明らかに反映されて行きます。だからこそグノーブルの数学科では「楽しい数学、感動できる数学」を合言葉として、生徒たちと向き合っているのです。

数学の基礎となる計算問題。そこを、疎かにしてはダメ。

中学受験を経験した生徒たちは、受験勉強の中で、いろいろな要素の組み合わせさせた「面白い問題」を経験しています。まさに先に記した「道筋を探す」タイプの問題です。

ところが中学に入り、算数から数学という新しい科目に変わったばかりの頃は、また最初からのスタートということもあって、学校の数学の授業では計算問題を中心に学習するはずで

となると、面白い問題に「味をしめた」生徒たちの中に、途端に「なんだ、数学ってつまらないんだな」と思ってしまう生徒が少なからず出てきます。事実、そういう生徒たちにとって学校の授業でやる計算問題というのは「何でいまさら」といった程度のものばかり。楽しいはずはありません。でも実は、ここを軽視してサボっていると、後々学校の成績が振るわず、厄介なことになってきます。

グノーブルの授業では、計算問題にたっぷり時間を割くことはしません。基本的に計算問題は宿題として、授業の中では頭をフル回転させて「道筋を探す」問題を扱います。

とうぜんながら、こうした問題に対してはほとんどの生徒は「食いつき」が良く、目を輝かせて取り組んでいます。ところが、学校の定期テストの時期となり、いざ蓋を開けてみれば思ったほどテストの点が取れていない。なぜなら、学校の定期テストは「正負の数」の計算がずらりとならんでいます。日々の基礎学習(計算問題)を疎かにしていて計算慣れしていない生徒は、つまらない計算ミスをしてしまい、取れるはずの点を取りこぼしている場合が少なくないのです。

じっくりやれば出来るのですが、ミスはミスです。さらに、こうした現状を突きつけられた保護者の中には「何のために塾に行っているの！」となってしまいう方も稀にいます。

さらに、中学2年生になってくれば、二次方程式や因数分解が出てきますので、そこで計算練習を積んでいない生徒は「ピタリ」と手が止まってしまい、結果、本格的な「数学嫌い」になってしまいます。

数学を好きになるためには、面白い問題にたくさん触れて、その醍醐味を知ることによって変わりはありません。しかし、自分の好きなことだけやっても本当の力はつきません。地道な努力(計算問題の自学自習)がきちんとできていて、それでなおかつ更なる高みにチャレンジしていくことが大事です。

おしえて!先輩



石丸 あんな さん (東大文Ⅱ 桜蔭出身)

素晴らしいのは、英語だけじゃない。

中学1年の時から6年間、グノーブルの先生方に英語と数学を教わっていました。高校生になってからは古文と現代文の授業も受けました。

受験生の間では定評のある英語の場合、なにしろ演習量が多くて、立て続けに英語が頭に入ってきます。グノーブルの英語に慣れてしまうと、他の塾でよくある「1時間の授業で英文の構文解析を1題やって」などというのは「語学の勉強じゃないでしょ」と思ってしまうほどです。

数学についてもグノーブルは素晴らしく「この授業について行けば万全」と思いました。他の受験生が、まず知らないような問題に対するアプローチというか“技”をたくさん教えていただきました。

「自分は、解法に対するたくさんの引き出しを持っているんだ」と思うことで、試験会場でも緊張することなく、落ち着いて試験に臨むことができました。

また、高校に入ってから受講した古文の行村先生は、とにかくパワフル。体全体を使った授業が特長的で、単語の成り立ちを説明する時も、黒板の前でまるでお芝居を演じるように教えてくれます。その効果は絶大で、古文を目と耳で覚えることができるため、試験本番でも「あ、この単語の意味は先生がこういうふうに教えてくれたっけ」と映像で思い浮かべることができました。

私は別の予備校にも世界史を習いに行っていました。そこでは先生が私たち生徒の名前すら覚えてくれませんし、質問するにしてもどこか申し訳ないような気持ちになってしまう。やっぱり私にとっては、生徒と先生の距離が近いグノーブルの授業がピッタリだったと思っています。

6年間で振り返って、アドバイスをひとつ…

学んだことは勉強だけではありません。私は英語科の中山先生が英文に当たる心構えとして常におっしゃっていた「メタコグニション」とか「離見の見」の話にとても心を動かされました。

私の場合「猪突猛進」と言うんでしょうか、試験を受けている時に集中し過ぎてまわりが見えず、それで自滅するということがよくあったのです。確かにいま、自分は試験に向かっているのだけれど、もう一人の自分が離れたところで、冷静に自分を見ているつもりになると「うまくいく」という話です。それを意識して実践したら、本当に冷静に試験を受けられるようになったのです。

そうした訓練がもたらしてくれた好影響は勉強だけではありません。生活全般にゆとりを持つことができるようになって、人間的にも少しは成長したんじゃないかと思っています。

私はグノーブルの先生方に6年間お世話になって、目標としていた東京大学に合格できたわけですが、これから大きな目標を目指そうとする方々にアドバイスをすれば、勉強以外のことにもたくさん時間を割いた方がいいと思います。勉強ばかりだと視野が狭くなってしまいますので、家の手伝いや読書やスポーツなど、そうした時間を持つことが大切だと思います。

中学生や高校生のうちは、勉強だけでなくそれ以外のことにも積極的に関わりを持って、自分の土壌をつくるのが大事ではないかと、反省も込めて思っています。

(取材・文：吉村高廣)

からだとうつのSOS

全学年

第1回

学習効果を高めてくれるアロマ

アロマセラピーというのは、柑橘系やハーブ系さらには樹脂系など、幾つかの香りの成分カテゴリーに分けられ、その香りの成分ごとに用途も違えば、得られる効果も違います。そこでこのシリーズ第1回目は「学習効果を高めてくれるアロマ」をご紹介しますと思います。

学習効果を高めるということは、香りの成分が脳を刺激して、その働きを活性化してくれるということ。いくつかの一流企業では、新人研修において実際に活用されている能率アップの施策にもなっています。学習効果を高めるアロマオイルには、グレープフルーツやレモンといった柑橘系の香りとユーカリやペパーミントなどのハーブ系の香りが挙げられます。柑橘系は爽やかさ、ハーブ系はさらに刺激の強い「ツン」とした香りが特徴で、この2つの香り成分を配合することで、集中力や記憶力といった脳の働きにアプローチする香り成分が得られます。ルームスプレーなどにしてお子さまの勉強部屋に「シュッ、シュッ」と2、3度スプレーするだけで、学習効果の向上が期待できるはずです。

《ルームスプレーのつくり方》

(用意するもの)

- ・アロマオイル
(ローズマリーとグレープフルーツ)
- ・無水エタノール
- ・水
- ・スプレーボトル

(つくり方)

1. スプレーボトルに無水エタノールを10ml入れます
2. そこにローズマリーを5滴、グレープフルーツを10滴入れよく振ります
3. さらに水を90ml加えてよく振って出来上がり



アロマオイルの選び方

百貨店やアロマショップに行くと、同じローズマリーにしても様々なメーカーのアロマオイルが売られています。メーカーによって香りに違いがありますが、基本的には、自分の好みの香りのもをお選びください。また、アトピーをお持ちのお子さまでも安心してお使いいただけますが、そもそも「香りが嫌い」ということであれば使用を中止してください。香りがストレスとなって逆効果となってしまいます。

英国IFA認定アロマセラピスト 田中 薫

晴
読
雨
読

この
一冊

全学年

『子どもの心のコーチング』
一人で考え、一人でできる子の育て方

自分の子どもを「良い子」に育てたい。そのあまり、世話を焼きすぎて依存心が強く、なかなか自立できない子どもが増えているといえます。しなしながら、本当に子どもの将来を思うのなら、自分で考える力や、周りの人たちと上手くやっつけていける本物の「生きる力」を身につけさせるのが親の務めです。本書では、コーチングの技術を応用して、子どもの内なる能力を引き出し、子どもが自分で考え、答えを出せる子育て法を紹介しています。著者である菅原裕子さんは、人材コンサルタントとして企業の人材育成の仕事に長年携わってきたスペシャリスト。その経験に加え、自らの子育て体験をベースとして「子どもが自分らしく生きること」を援助するNPO法人「ハートフルコミュニケーション」を主宰。全国の小中学校で数多くの講演を行っています。



菅原裕子 著
PHP文庫 (552円/税別)

編集後記

この度より、保護者の皆さまに新しくお届けする「グノレット」。できるだけリアルな情報をお届けしたいと思い、ほとんどすべての記事を「語られた言葉」で編集しました。この冊子を編集するにあたって、たくさんの先生方や卒業生たちにお話を聞きました。同じ子どもを持つ親として、思わず納得してみたり、感心してしまったりの連続でした。今後も隔月間で、保護者の気になる情報やためになるアイデアをご提供してまいります。宜しくお願い致します。
(編集責任：吉村高廣)

知の力を活かせる人に...
東大・医学部・早慶 難関大学の受験指導

GNOBLE

グノーブルにアクセス。東大にアクセス。
www.gnable.co.jp

2010年 大学受験合格実績 第4期 在籍307名

東京大学各学科

理科Ⅰ類	18名
理科Ⅱ類	5名
理科Ⅲ類	2名
文科Ⅰ類	12名
文科Ⅱ類	7名
文科Ⅲ類	10名
一橋大	15名
東工大	9名
東外語大	7名

東京大
54名

国公立慶医
48名

医学部医学科111名

東京医科歯科大(医)	5名
東北大(医)	1名
千葉大(医)	2名
筑波大(医)	5名
群馬大(医)	3名
他	3名

※国公立大医計42名

慶應大
149名

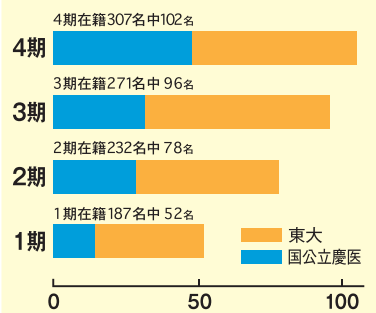
早稲田大
133名

上智大
46名

慶應大(医)	6名
東京慈恵医大(医)	13名
日本医大(医)	9名
順天堂大(医)	8名
東京医科大(医)	4名
他	4名

※私立大医計69名

東大+国公立慶医合格実績



本冊子に対する感想やご要望をお寄せください。

できるだけ早い機会に、保護者の皆さまからの投稿欄を設けたいと思っています。お子さまの学習に対する疑問やグノーブルに対する提言、さらには本冊子に対する感想やご要望など、日ごろお考えのことやお気づきのことをぜひともお寄せください。さらなる授業の質向上と、より良い誌面づくりの糧にさせていただきたいと思っております。

(グノレット編集事務局 今村幸一)

eメールにてお寄せください：gnolet@gnoble.co.jp